令和２年度 北海道赤レンガ建築賞

令和２年度 北海道赤レンガ建築賞　夕張市拠点複合施設「りすた」

令和２年度 北海道赤レンガ建築賞

■主　催

一般財団法人 北海道建築指導センター
一般財団法人 北海道建設技術センター
公益社団法人 日本建築家協会北海道支部
一般社団法人 北海道建築士会
一般社団法人 北海道建築士事務所協会
北海道

■趣　旨

地域社会の発展に貢献する創造性豊かな建築物等を表彰することにより、北海道における建築創造活動を促進し、健全な地域文化の発展と広く建築文化に対する意識の高揚を進め、もって、地域に根ざしたまちづくりの推進などを図ることを目的とします。

■表 彰 内 容

- 北海道赤レンガ建築賞　　１点　表彰状、銘板
- 北海道赤レンガ建築奨励賞　数点　表彰状

両賞とも、北海道知事が建築主･設計者･施工者を表彰します。

■募 集 対 象

北海道内に建設され、令和2年3月31日までに竣工した建築物及び建築物群とします（竣工後、概ね3年以内）。ただし、住宅など個人の利用に限定されるものは除きます。

■募 集 期 間　令和2年8月3日から8月31日まで

■応募作品数　27作品

北海道赤レンガ建築賞実行委員会

一般財団法人 北海道建築指導センター
一般財団法人 北海道建設技術センター
公益社団法人 日本建築家協会北海道支部
一般社団法人 北海道建築士会
一般社団法人 北海道建築士事務所協会
一般社団法人 北海道設備設計事務所協会
一般社団法人 日本建築構造技術者協会北海道支部
公益社団法人 日本建築積算協会北海道支部
一般社団法人 建築設備技術者協会北海道支部
一般社団法人 北海道建設業協会
一般社団法人 北海道電業協会
一般社団法人 北海道空調衛生工事業協会
北海道管工事業協同組合連合会
一般社団法人 北海道建築技術協会
北海道

※ 実行委員長　(一財)北海道建築指導センター 理事長　平向邦夫

北海道赤レンガ建築賞審査委員会

委 員 長	羽深　久夫	札幌市立大学名誉教授
副委員長	小町　美穂	(一社)北海道建築士会理事
委　　員	小西　彦仁	(公社)日本建築家協会北海道支部支部長
委　　員	菅沼　秀樹	(一社)北海道建築士事務所協会
委　　員	平向　邦夫	(一財)北海道建築指導センター理事長

令和2年度 北海道赤レンガ建築賞

夕張市拠点複合施設「りすた」

■ **建築主** 夕張市

■ **設計者** ㈱アトリエブンク
㈱山脇克彦建築構造設計
北海道大学大学院工学研究院都市地域デザイン学瀬戸口研究室

■ **施工者** ピーエス三菱・坂本建設工業特定JV
末廣屋・大晃・夕電・駒井特定JV
日管・北宝・泉特定JV

■ **建築物の概要**

所在地	夕張市南清水沢4丁目48番地12
主要用途	事務所
構造及び階数	S造　平屋建
建築面積	1,959.37㎡
延べ面積	1,747.02㎡
竣工年月日	令和元年12月20日

□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

「りすた」は、都市機能の強化に向けてまちの中心部に公的・公共的な機能や交通結節機能を集約・複合化した施設です。まちの将来像である「安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆうばり」の中核施設として、「笑顔とにぎわいがこだまする街」を実現させるべく、高校生をはじめ市民・市議会・市職員と当市のコンパクトシティ構想に助力をいただいている北海道大学（瀬戸口教授）等が一体となり計画段階から検討を重ね、「多世代交流の場として、市民が主体となって築き上げる施設」「子どもの賑わいが循環する安心で安全な施設」「多様な活動を生み出すフレキシブルで開放的な施設」を計画の柱に掲げ、あらゆる活動や交流の拠点として、市民が集い親しまれるよう計画しています。

□設計の特徴

国道と道道に挟まれた利便性が高い計画地は、元々は農地であり、北側には旧清水沢神社の仮宮跡が残る小高い鎮守の森が残されていました。設計に当たっては、この地から新たに始動する夕張の将来像を見据え、緑豊かな環境に包まれた都市拠点をイメージした「まちと自然をつなぐ建築」をコンセプトとしました。

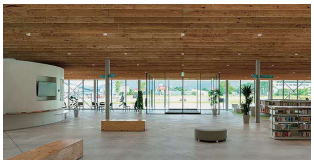
建物は南側に間口を広げた台形状平面に、森に向けて緩やかに傾斜した大きな1枚屋根をのせた構成となっています。南北面のファサードは全面ガラス張りとし、南面バスロータリーからは市民をおおらかに迎え入れ、高さ5.5mとなる北面からは森の緑に反射した光や風を取り込みます。開放的な平面を実現するため、300φ以下の鉄骨柱を8.1mグリットで配し、外周部のみにブレースを集約させてデザインと構造の融合を図りました。道産カラマツ合板を短冊状にカットした木ルーバーが天井全面を覆い空間の一体感を強調します。市民ワークショップで検討された様々な機能は、入れ子状の小架構やガラススクリーンにより空間を緩やかに仕切りながら注意深くレイアウトしました。刻々と変化する自然を身近に感じられ、多様な活動が大きな屋根の下に展開される、「小さなまち」のような建築が生まれました。市民が自由にくつろぎ交流する、新しい夕張の拠点となることを期待しています。

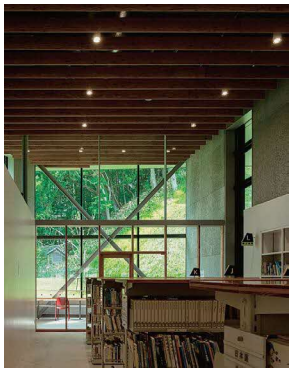
□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

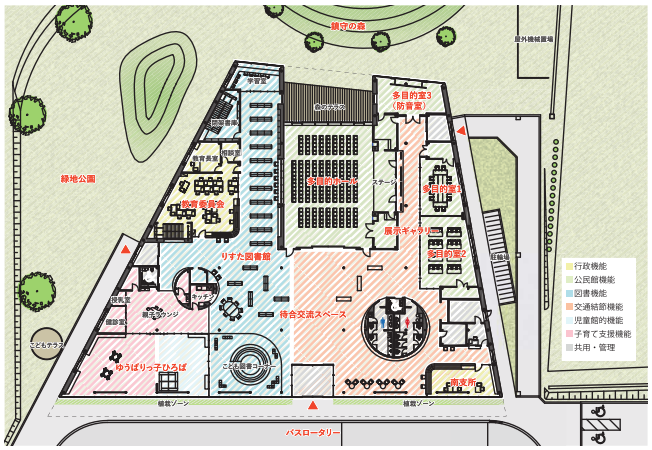
大空間で開放的な空間を演出するための主構造である鉄骨の品質管理及び施工に十分配慮しました。施工図作成から工場製作、現場搬入、施工といったそれぞれの過程における品質管理や工程管理を徹底し工事を進めました。また、変形台形型の建築であるため各所におけるディテールの納めにも苦慮しましたが、施工図段階から設計者と綿密な打ち合わせを徹底し、施工に反映させました。

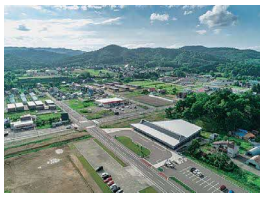
□完成後の地域への貢献度等

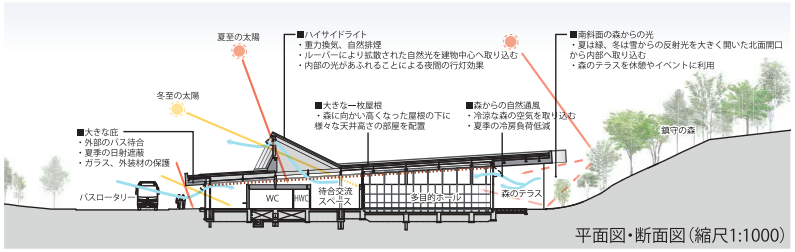
令和2年3月の供用開始以来、一時的に休館の時期はあったものの、中高生をはじめ多くの市民が立ち寄り施設を利用しています。施設内にある行政窓口での手続きが終わった後には市民の作品等が展示されているギャラリーを見学したり、バス通学の児童生徒がバス時刻までの間に待合交流スペースや学習室で学習をしていたり、未就学の子どもが集まることで親同士の交流や施設内にいる方々と自然に交流が生まれるようになりました。交通機能の結節だけではなく、人や活動（＝交流）、笑顔や賑わい（＝幸福）なども結節する、夕張の新たな「まちの駅」として始動しています。











平面図・断面図（縮尺1:1000）

□受賞のことば

建築主　夕張市長　厚谷　　司

この度は、夕張市拠点複合施設「りすた」が令和2年度北海道赤レンガ建築賞という大変栄誉ある賞を賜ることとなり、大変光栄に存じます。

本市は、安心して幸せに暮らし続けることのできる持続可能な地域社会の構築を目指し、集約型コンパクトシティの形成による都市構造の再編を進めており、その中核を担う拠点施設として、「りすた」は誕生いたしました。

財政破綻という困難を経験し、行政主導から市民主体のまちづくりへ転換を図ってきたなかで、施設構想の策定においても地元高校生をはじめ多くの市民が参画し、延べ5年にわたる議論を重ね、「夕張再生の象徴」となる施設として市民の未来への希望が形となったものと思っております。

施設整備のコンセプトである「笑顔とにぎわいがこだまする街」の実現に向けて、夕張の未来に光を照らし、市民の交流や活動が輝き愛される施設としてあり続けます。

設計者　株式会社アトリエブンク　設計部長　村國　　健・設計部主任　尾辻 自然

この度は、大変名誉ある賞を頂き、関係者のみなさまに厚く御礼を申し上げます。

夕張市拠点複合施設「りすた」は、分散するまち同士をつなぐ交通体系の再編・都市機能の集約を図る集約型コンパクトシティを将来像とする夕張市において、新しいまちの象徴となることが求められました。

ワークショップを通じて広く市民のみなさまの声を拾い上げていくにつれ、種々の機能は小さくとも、それらを複合することで新しい出会いや発見が生まれるのではないか、というアイデアが共有されました。一方、敷地の一角には古くから残る鎮守の森が広がっていたため、緑豊かな環境に包まれながら、大きな1枚屋根の下に心地よい空間が広がる姿をイメージしました。竣工後、訪れるたびに多様な企画が展開されており、来訪者の方々も自分の居場所をみつけ思い思いに過ごされているようです。ひとえに運営・管理される市職員の方々のご尽力をはじめ、利用されるみなさまの創造力によって結実した建築であると感じております。

「りすた」が市民のみなさまにとって自由にくつろぎ交流する場であり続けるために、今後も設計者として末永く携わらせて頂ければ幸甚です。

施工者　《ピーエス三菱・坂本建設工業特定建設共同企業体》　代表者　株式会社ピーエス三菱札幌支店　支店長　鈴木 俊成

この度は夕張市拠点複合施設「りすた」が、栄誉ある北海道赤レンガ建築賞を受賞することとなり、施工者を代表して衷心より御礼申し上げます。

清水沢地区において、コンパクトシティ形成を目指す夕張市の象徴となり得るこの拠点複合施設建設の一翼を担わせて頂いたことを光栄に思うと同時に、この工事がスタートした平成30年8月から翌年12月竣工までの約1年5ヶ月に渡り、近隣住民のご理解ご協力をいただき、夕張市役所関係各位をはじめ、工事に係る様々な方々のご指導ご鞭撻を賜りながら無事故無災害で完工できましたこと、この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

この建物がこれからも夕張市の拠点として市民の皆様に愛される施設となるよう願っております。また我々も今後とも夕張市の未来に寄与すべく精進して参る所存です。